

# フォーラム 登別らしさを政策に ～「のぼりべつ発見の旅」～

フォーラムは、同志社大学政策学部教授の今川晃さんをコーディネーターに、登別観光協会専務理事の奥村修さん、登別まちづくり促進期成会役員の小笠原春一さん、最優秀賞を受賞した立教大学原田ゼミ(A)代表の八重樫温代さん、優秀賞を受賞した日本大学法学部外山ゼミ代表の永松真由美さん、同志社大学ANDAS(A)代表の岸本拓也さんをパネリストに行われました。ここでは、その内容の一部を紹介します。



同志社大学政策学部教授  
今川 晃さん

△今川さん▽  
まちづくりというのは、住んでいる人たちの土地の声と外からの風の声をどのように組み合わせようかということが重要ではないかと思えます。外の学生からの提言ということで、登別で活躍されている、奥村さんや小笠原さんはどのように感じていますか。

△奥村さん▽  
われわれとしても客観的に自分たちのことを正直に見ることができないという部分があります。今回のように各地から来た若い方の視点で、ものを見るということはとても刺激になります。かなり実現の可能性の



登別観光協会専務理事  
奥村 修さん

高い事業があり、アイデアを使わせていただくことは可能であると感じています。

△小笠原さん▽

市民として提言内容の実現に向けて行動力を高められるかジレンマがあります。皆さんの提言を市民が実行しようとしたとき、多くの課題があると思えました。その一つは市民の意識です。登別に誇りを持てれば自信を持って実行できると考えます。



登別まちづくり促進期成会役員  
小笠原 春一さん

△今川さん▽

小笠原さんから、住民の意識ということがあります。八重樫さんのグループで、これについて議論したことがあればお話しください。

△八重樫さん▽

はじめて政策フォーラムに参加しました。その分あまり現実が見えていない部分があるかもしれませんが、自分の理想を形にするという思いがあったので、柔軟な考え方ができた



立教大学原田ゼミ(A)代表  
八重樫 温代さん

と思います。住民が動いてくれるという意識を持つて案をつくったので、みんなが常に自分で意識を持つことができれば課題だと思います。

△今川さん▽

岸本さんに伺いたいのですが、このフォーラムの目的の一つに市民の方などの話を聞きながら、住民自治の考え方を発展させていくということがあります。参考になった視点がありましたか。

△岸本さん▽

提言の中で欠けていたと思うのは、市民との交流や、実際に住んでいる人たちが何を考えているのかという視点です。そこは、すごく参考にしたいと思います。市民の皆さんの中にも意識の違いがすごくあったので、市民の意識を大事にしたいと思っています。



同志社大学ANDAS(A)代表  
岸本 拓也さん

△今川さん▽

永松さんも、ほかの提言を聞き、

勉強になった視点をお話してください。

△永松さん▽

わたしたちは、もともと登別には魅力があり、それをうまく伝えられないだけであるという視点で考えたので、皆さんが考えてきたことと大きく違うことを感じました。良い悪いは別として、皆さんの政策提言はとても新鮮で魅力的に感じました。大切なことは、土地とそこに溶け込むことです。



日本大学法学部外山ゼミ代表  
永松 真由美さん

このほか、「市外から来る人に意見を出してもらった方が登別にとって刺激になるのでは」といった意見や「提言された政策を生かすことができれば新しい登別市になると思う」といったフォーラムの感想などが述べられました。

今回の全国大学政策フォーラムでは、学生たちがたくさんの『登別らしさ』を発見してくれました。

今後は、この『登別らしさ』が論議され、登別市のまちづくりに生かされることを期待されます。

全国大学政策フォーラムは、来年も登別市での開催が予定されています。

問い合わせ 企画グループ

☎ 1122

Eメール:kikaku@city.noboribetsu.hokkaido.jp

特集 登別らしさってなんだろう